



A new species of *Psylla* from Tokyo

By O. SHINJI

タカトウダイに寄生する東京産の木蝨一新種

東京高等農林學校教授、博 進 士 織 平

タカトウダイキジラミ *Trizon Euphobiae* n. sp.

(雌蝨) 体は中形・寧ろ扁平にして淡緑乃至淡黄色地に黒色の班帶を具へてゐる。頭部は淡黄色にして黒色部を有せず、額錐は甚だ短く且つ末端は圓く終つてゐ、黄色である。複眼は顯著にして濃赤色、殆んど黒色に近い。單眼は複眼とは明瞭に分離し、赤色である。觸角は頭・胸兩部の和よりは著しく短く、十節よりなり、第八節の後半部以降第十節の末端に至る部域は黒色にして覆ひ狀を呈し、殘餘の節と部域とは體と同色の淡黄色である。第一節は幅よりか高さが劣り、第二節は長幅約同大にして幅は第一節の幅の約二倍大、第三節は最長片にして第四・第五・第六節の和と約同大、第四節は第六節と約同長、第五節は第四節の約二分の一長、第七節は第八第六兩節の何れよりも短い、第九節又は第五節よりも幾

分長く、第十節は第九節よりも幾分長くして末端には黒色の二剛毛を生じてゐる。胸部特に背板は黄色にして楯・後楯板は甚だ長く、各楯板は黒色縁を以て堺してゐる。肢は寧ろ短大にし淡黄色であるが第二跗節と爪とは黒色。腿節は脛節よりも幾分短く、後脛節端には黒色なる剛毛が三個稀には四個生じてゐ、櫛毛は爪よりも幾分長くして淡黄色である。前翅はトガリキジラミ形ではあるが、末端は甚しく尖らない。翅長は翅幅の約三倍大、脈は黄色。徑・中・肘の三脈は同じ點に於て分れ、徑脈枝より生ずる徑脈は途中に於て少しく前方へ曲りて後に翅端前に於て前縁脈に合し、中脈枝は分離後殆んど直ちに上方へ灣入して後に翅端に達、之れより生ずる第二中脈は外縁に於て且つ徑脈が前縁に交ると同じ距離に於て交つてゐ、第一肘脈は第二肘脈と第二中脈との中間を走つてゐる。後翅に於ては肘脈枝は脛中脈の分離前に分離し、中・徑兩脈は翅頂の上・下兩縁に於ける等距離の點に於て翅縁に出會つてゐる。腹部の地色は淡黄色であるが、第一乃至第七腹環節の背・腹兩板は黒く、第七以後の諸節は淡綠色である。雌蝨の尾端なる兩辨は共に淡綠色にして上辨が下辨よりも幾分長い。體長三耗。成蝨の出現期は十一月五日前後である。

(蟲癭) 本種は東京附近に於てはトカトウダイの地上莖に産卵し、此の部に生ずる側枝五―七個に幼蝨が寄生する時は芽は變形して殆んど叢出葉塊をなし、幼蝨は各捲縮葉間に白色扁平の體をなして寄生し晩秋の候に成蝨化する。

朝鮮産介殼蝨考察 (其の三)

神 田 重 夫

Studies on Coccidae from Corea (III)

By Sigeo Kanda.

九州帝國大學農學部
昆蟲學教室圖書印

THE INSECT WORLD.

Vol. XLVI.] JANUARY 15th. 1942. [No. 1

昆蟲世界

No. 533

昭和拾七年
一月
號

THE MONTHLY MAGAZINE DEVOTED TO
THE USEFUL APPLICATION AND SCIENTIFIC STUDY OF ENTOMOLOGY, EDITED

BY

UMEKICHI NAWA

DIRECTOR OF

NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY

GIFU JAPAN.



故正六位大勳等 松次氏
2557—2598

PUBLISHED BY THE NAWA ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN

財團法人和名昆蟲研究所發行

AN2C1942

明治三十年九月十四日第三種郵便物認可
昭和十七年一月十五日發行
(第四拾六卷)第五百三十三號
(每月一回十五日發行)